



## 基調講演 モンゴルの北東アジア戦略

モンゴル国首相外交補佐官  
O. オチ

まず本会議の20回を記念してお祝い申し上げたい。本会議は、北東アジアの意見交換の場として非常に重要な役割を果たしてきた。この20年は、モンゴルの改革の20年と軌を一にするものだ。

北東アジアは天然資源、人的資源、経済資源に恵まれ、台頭する活力ある国々が存在する。北東アジアはモンゴルの対外貿易の80%、外国直接投資の72%を占め、モンゴルにとって戦略的に重要な地域である。ロシアの近代化、中国の目覚ましい経済成長はいずれもモンゴルにとってチャンスであり、モンゴルの経済発展の基礎となるであろう。同時に、日本など第3の隣国も大切にしたい。

北東アジアの国々は多様であり、ダイナミックな経済成長国、経済弱小国、海へのアクセスを持たない国、経済閉鎖国など、基本的に政治体制が異なるだけでなく、経済の発展段階も異なる。地域統合に向けた努力がなされているが、大きなチャンスがあると同時に、大きな課題もある。

モンゴルは地理的に重要な位置にある。豊富な天然資源に恵まれ、経済発展の源泉となると考えている。地質学的にも豊かで、これからの地質探査に期待がかかる。近代的な鉱業開発が始まって20年に過ぎないが、国際級の埋蔵量を持つ鉱区がいくつか発見されている。他の資源国や途上国と異なる特長は、北東アジア諸国すべてと友好的な関係にあることであり、そのことがモンゴルの安全保障と経済発展に寄与し、この地域の信頼醸成にとっても重要な点となっている。北東アジアは世界的にも多大なポテンシャルを有し、域内の技術力、経済力が合わされば、世界でもっとも強力な地域となる。モンゴルとしてはそのための貢献をしていきたい。

北東アジアの国々の中では現在、ロシアと北朝鮮が世界貿易機関（WTO）のメンバーではない。我々は、ロシアがWTOに早急に加盟することが、この地域への投資をさらに引きつけ、この地域の経済発展を維持するために大きな意義を有するものと考えている。また、ロシアと中国はモンゴルの天然資源にとって、ウランなどの希少金属を含め、大きなマーケットともなっている。

中国が中部・西部に投資する状況においては、モンゴルにとって厳しい条件が出てくることもあろうが、モンゴル

経済は自由化されており、資本の流入に関していくらか制限はあるものの、5%という低い税率など、税体制はシンプルで競争力がある。また、新しい起業家が生まれ、変革を推し進めている。

モンゴルは、鉱業を基礎に、世界で最も早い経済成長を遂げるという高い目標を掲げている。鉱業先進国のカナダやオーストラリアのように、系統だった鉱業発展策が必要だと考えている。

ここで主要なインフラ投資プロジェクトについて紹介しよう。金、銀、銅、石炭、モリブデン、ウラン、亜鉛など、今日までに1,170の鉱床が確認されている。65億トンのコークス炭を持つタバントルゴイは現在、入札の過程にある。昨年、開発調印したオユトルゴイは豊富な銅と金を有する。また、ウランの埋蔵資源がいくつか確認され、共同探査・投資の提案が行われている。

GDPは2013年に年間20%もの成長が見込まれる。政府としては最も好ましい投資と経済の関係を整えようとしているが、重要なのは域内の貿易体制である。域内の経済大国がパートナーとなって協力してくれることを期待している。互惠精神と透明な投資環境の下で、投資を歓迎する。

経済協力分野としてさらに、世界33位の埋蔵量と言われる石油資源も有力な投資分野である。鉱業以外でも、農業の発展も従来から重要な経済分野である。畜産業の振興により、4,500万頭の家畜を育成し、クリーンな畜産品を世界市場に提供していきたい。

これからの10年、鉱業振興を通じて発展を期すとしても、内陸国のモンゴルとしては、鉄道網の発展がなければ宝の持ち腐れになる。中国、ロシアはモンゴルの鉱物資源の開発に着目し、鉄道アクセスの整備を実現しようとしている。

発展・開発の一方で、他の国々から学ばなくてはならない面もある。天然資源を基礎にした経済はこれまでいくつかの過ちを経験し、環境にも有害な影響があった。持続可能な開発、環境保護、グリーン経済の原則がモンゴルの政策でも重要視されている。外国投資家との間でも環境面が重要な条件となっている。我々は昨年、ゴビ砂漠の地で閣議を行い、政府の環境に対する強い決意を示し、世界からも注目された。この地域における政治的意思を結集するこ

とが重要である。

北東アジアの産業ポテンシャル、科学・技術の発展、金融の可能性などを適切に活用すれば、我々は地域の統合や経済発展および人々の生活レベルの向上という全体的な目標に到達しうるであろう。そのためモンゴルは、天然資源

の基地として、経済成長エンジンとして、北東アジアの重要なプレーヤーとならんとしている。

モンゴルは北東アジアと中央アジアの連携を求め、アジア市場全体にアクセスしていきたいと考えている。

[文責：ERINA]